

## 別冊資料

< 目 次 >

本頁	研修報告ページ	図・表番号	名 称
1	p.8	図 5-1	作成した ICF 関連図の書式（表面）
2	p.8	図 5-2	ICF 関連図活用ガイド（関連図の裏面）
3	p.9	表 6	児童生徒理解のためのチェックリスト
4	p.11, 14	図 7-2	生徒 A の全体像理解シート
5	p.12, 15～18	図 7-3	重点課題Ⅰ「忘れ物が多い」を主訴にした重点課題シート
6	p.13, 15～18	図 7-4	重点課題Ⅰから「忘れ物ゼロ」を目標に設定した目標／手立てシート
7	p.12, 19～22	—	重点課題Ⅱ「意欲をもって学習に取り組めない」を主訴にした重点課題シート
8	p.13, 19～22	—	重点課題Ⅱから「目的をもって学習に取り組む」を目標に設定した目標／手立てシート

平成28年2月19日

大分市教育センター研修生 神田 幸

作成したICF関連図の書式(表面)

<p><b>ICF関連図</b></p> <p>全体像理解・重点課題・目標/手立て</p>	<p>対象者: (年組)</p> <p>作成者:</p> <p>作成日: 年 月 日</p> <p>再検討: 年 月 日</p>	<p>現時点 までの 経緯や エビ ソード</p>	
<p><b>&lt;健康状態&gt;</b></p>	<p><b>&lt;活動&gt;</b> 課題や行為の個人による遂行 (できること/できないこと)</p>		<p><b>&lt;参加&gt;</b> 生活・人生場面への関わり(集会 授業 当番 等) (役割を果たす・活動や学習に参加している/参加していない)</p>
<p><b>&lt;心身機能・身体構造&gt;</b> 身体的特徴 精神面の傾向 視聴覚等機能 投薬状況 診断 等</p>			<p>学校生活</p>
<p><b>&lt;環境因子&gt;</b> 物的・人的・制度的環境</p> <p>家族構成 保護者の様子・願い</p>			<p>家庭生活</p>
	<p><b>&lt;個人因子&gt;</b> 体力 習慣 経験 性格 志向 困難への対処法 所属 等</p>		<p><b>本人の気持ち・願い</b></p>

ICF 発達図を使おう！ (ICF 発達図活用ガイド)

- ①「何の目的で使いますか？」  
 子どもの発達・手立ての改善に...  
 ICF 発達図 → a 全体発達シート  
 子どもの姿になる行動にたいしての対応 → b 重点発達シート  
 課題や課題の改善 → c 目標/手立てシート

＜ICFの考え方＞  
 子どもが抱く困難に重点をおき、子ども  
 自身に強い力をさせるのではなく、  
 家族や保護者の関わり方を変えた上、  
 環境の調整を怠らなければ、  
 困難を軽減しようとすること。

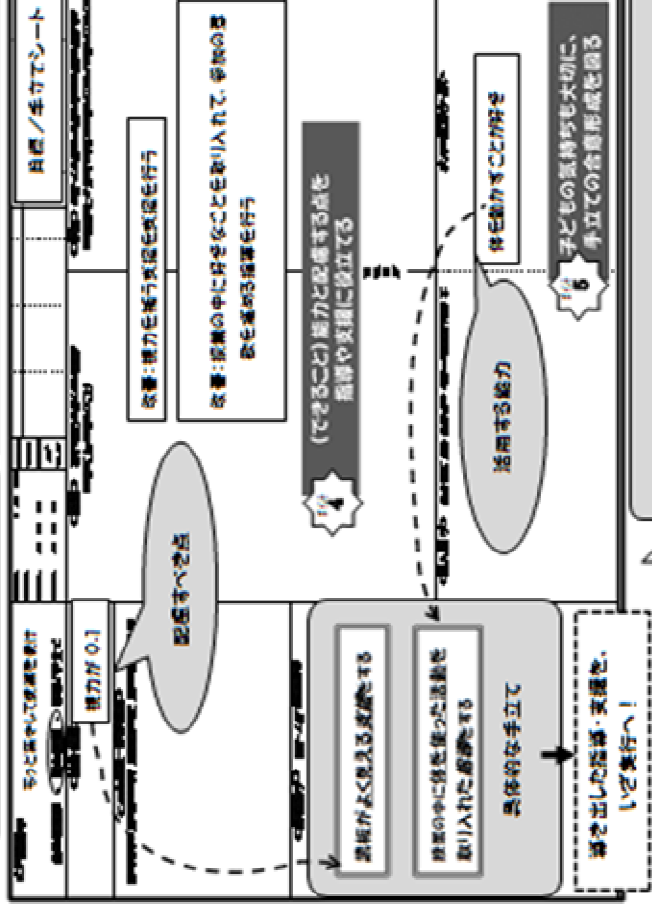
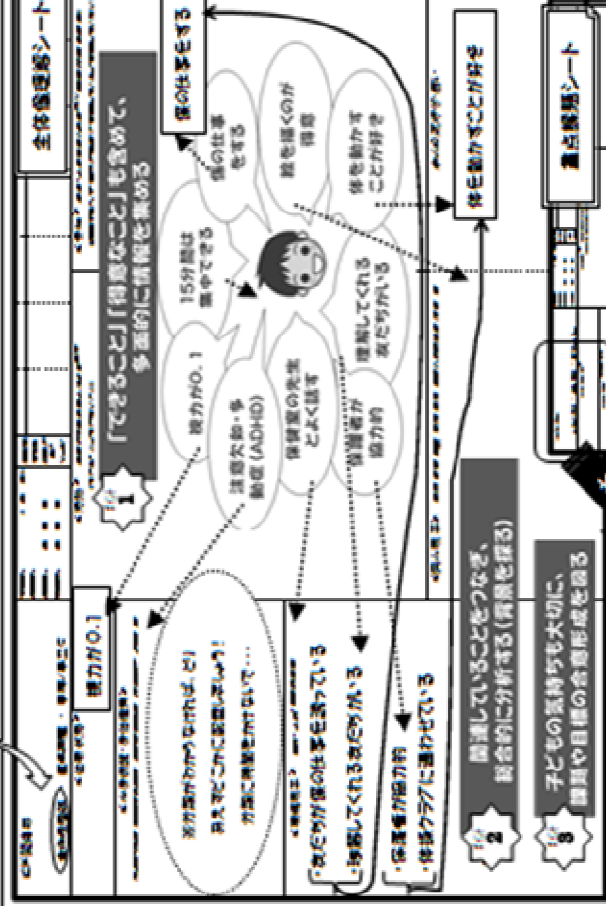
- 全体発達シート** の作成手順
- 1 行動観察・情報収集・子エッセイリスト  
子どもの子どもの情報を付録に書き出す
  - 2 情報をくくつの構成要素＞に分類  
し、同じ内容同士まとめて整理する(因  
子の強み・課題共済)
  - 3 整理する事項同士を矢印(因中の  
矢印)で結び、困難の質を整理し出し  
ながら、生活全般で課題を構想する  
※課題が連続ある場合は早く改善が求  
められるものや取り組むべき、本人  
の気持ちや生活で優先順位をつけ、  
重点課題を絞り込む

- 重点発達シート** の作成手順
- 1 子どもと課題(目標)の姿形成
  - 2 全体発達シートから重点課題に  
関係する情報を写し、さらに詳細な  
情報を書き出す
  - 3 情報を分類し、同じ内容同士をまと  
めて整理する(全体発達シートと同様)
  - 4 整理する事項同士を矢印で結び、  
困難の質を整理し出す  
※:「読めてくれるおたけがない時は  
読ませない」ことが分かる

- 目標/手立てシート** の作成手順
- 1 難関目標に向けて段階的に目標を  
設定する※子どもと課題の姿形成
  - 2 重点発達シートから、「能力」や  
「配慮すべき点(配慮点)」を計画と  
して、情報を書き出し、構成要素に分  
類する
  - 3 「能力」と「配慮点」が先かされる  
具体的な手立て(指導や実践)を書  
き、発達因子へ記入する。その手立  
てと関連する「能力」や「配慮点」を  
矢印で結び、「自身の大きな達成  
共済」
  - 4 達成させて取り組めるように、子  
どもと目標達成に向けての手立ての  
姿形成を図る

ICF 発達図を使って  
 子どもの実態把握を  
 すると...  
 「もっている能力」が見えてくる → 活用すると  
 「配慮すべき点」が見えてくる → 補強すると

- ② 話し合い(ケース会議)の目標を設定しよう。 話し合い(ケース会議)の目標を設定しよう。  
 ③ 話し合い(ケース会議)の準備物と役割分担 話し合い(ケース会議)の準備物と役割分担  
 準備物 ICF 発達図ワークシート(A3) ICF 発達図(11×50×90cm)2冊 ICF 発達図用紙(印刷用紙)  
 「発達図」用紙 ICF 発達図用紙(印刷用紙) ICF 発達図用紙(印刷用紙) ICF 発達図用紙(印刷用紙)  
 方法 ① 発達図・作成書 (学級担任・コーディネーター・教科担任・保護者等)



「もっている能力」が見えてくる → 活用すると  
 「配慮すべき点」が見えてくる → 補強すると  
 子どもが主体的に活動しようとする  
 子どもだけに過度な努力をさせずに、  
 目標の姿に近づけることができる

児童生徒理解のための  
チェックリスト

		年 組 名 前	よくある	時々	まれに	ない
生活面	1	基本的な生活習慣が身についている(清潔・整潔な、食事・睡眠・排泄)。				
	2	自分のことは自分でしようとする意欲(自立心)が感じられる。				
	3	遅刻や欠席をしない。				
	4	家庭との配布物のやりとりができる。				
	5	第二次性徴の悩みがある。				
学 習 面	聞く	1 一言指示の理解が難しく、周りを見てから行動することがある。				
		2 聞き漏らしや、書かれたことをすぐ忘れる傾向にある。				
	話す	3 話し方がたどたどしい、またはとても卑口。				
		4 内容をわかりやすく説明できる。				
	読む	5 単語が速く、たどたどしい。				
		6 単語や行を抜かして読む。				
		7 読みにくい文字を書く。				
	書く	8 字の書き間隔いや、抜けがよくある。				
		9 書く速度が遅い、また、何度も黒紙を見て写す。				
		10 作文が書ける。				
計算	11 九九や四則計算が理解できていない、また、時間がかかる。					
図形	12 図形の問題や、作図が苦手である。					
記憶・運動・作業	13 英語の読み書きに時間がかかる。					
	14 体の動きがぎこちない。					
	15 手先を使う作業(リボン・裁縫・図工…)が苦手である。					
	16 整理えや移動がスムーズにできる。					
行 動 面 ①	1	ケアレスミスは特にならない。				
	2	勉強や宿題をきちんとする、また、家庭学習が定着している。				
	3	忘れ物や物の紛失がない、また、片付けができる。				
	4	係や当番の仕事はきちんとする。				
	5	授業中、落ち書きがなく集中できない様子である、またはぼんやりする。				
	6	質問が続わらないうちに答えたり、話をささげたりする。				
	7	ルールや順番が守れる。				
行 動 面 ②	1	融通が利かず、自みのある言葉を理解するのが難しい。				
	2	言いたいことを一方的に喋る。				
	3	同級生や友達との関係をうまく築いていない。				
	4	周りが因縁するようなことを配慮せず言う。				
	5	からかいやいじめの対象になりやすい。				
	6	特定の習や分野にとってもこだわりがある。				

◇その他、気になること

図7-2 生徒Aの全体像理解シート

<p><b>ICF関連図</b> ※ <span style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">全体像理解</span> は、生徒の困難</p> <p><span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">全体像理解</span>・重点課題・目標/手立て</p>	<p>対象者: A (3年 組)                  作成者: 神田                  作成日: 2015年 7月 日                  再検討: 2015年 12月 日</p>	<p>現時点 までの 経緯や エビ ソード</p>	<p>幼児~ 小学校(5, 6年) 中学校                  児童発達支援センター 特別支援学級に在籍 特別支援学級に在籍                  週1回OT,OS訓練                  療育手帳取得</p>	
<p><b>&lt;健康状態&gt;</b></p> <p>・良好</p> <p><b>&lt;心身機能・身体構造&gt;</b>                  身体的特徴 精神面の傾向 視聴覚等機能 投薬状況 診断 等</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">視覚情報が優位</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">軽度知的発達の変れがある</span></p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ルールが理解できる</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">言葉の聞きづらさがある</span></p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">時間的順序がわかる</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">複数作業を同時に行えない</span></p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">一斉に出された指示が理解しにくい</span></p>	<p><b>&lt;活動&gt; 課題や行為の個人による遂行</b>                  (できること/できないこと)</p> <p><span style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">忘れ物が多い</span>  <span style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">作業に時間がかかる</span>  <span style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">長く集中できない</span></p> <p><span style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">意欲をもって学習に取り組めない</span>  <span style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">計算に時間がかかる</span></p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">黒板を何度も見て書き写す</span></p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">周りを見てから行動する</span></p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">家庭学習の習慣がない</span></p>	<p><b>&lt;参加&gt; 生活・人生場面への関わり</b>(集会 授業 当番 等)                  (役割を果たす・活動や学習に参加している/参加していない)</p> <p><span style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">場に応じた言葉遣いがない</span>  <span style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">自分から人と関われない</span></p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分の仕事は忘れず行う</span></p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">周りに合わせておとなしくしている</span></p>		
<p><b>&lt;環境因子&gt; 物的・人的・制度的環境</b></p> <p>人 特別支援学級担任 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Aから信頼されている</span></p> <p>交流学級担任 教科担任</p> <p>家族構成 保護者の様子・願い</p> <p>父母 弟 祖母</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事が忙しい</li> <li>・Aとは会話がな。母とよくゲームをする。</li> <li>・別居。時々来ては世話をしてくれる。</li> </ul> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">家族は、AIには個別指導が必要だと感じている</span></p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">家族はAのことを家ではあまり構ってやれない</span></p>	<p><b>&lt;個人因子&gt; 体力 習慣 経験 性格 志向 困難への対処法 所属 等</b></p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">慎重に見通しをもってから行動する</span></p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">細かい作業が得意</span></p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">パソコンに関心がある</span></p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分を客観的に理解しにくい</span></p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">勉強に対する自信がない</span></p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">書くことが苦手</span></p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">説明が苦手</span></p>	<p><b>本人の気持ち・願い</b></p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">みんなと同じように見られたい</span></p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">時間がかかることは面倒だ</span></p>		

重点課題 I 「忘れ物が多い」を主訴とした重点課題シート

※第1段階(7月)・第2段階(9月)・第3段階(10月)・第4段階(12月)は評価のみを同時に記載している

<p>ICF関連図</p> <p><b>重点課題 I: 忘れ物が多い</b></p> <p>全体像理解 <b>重点課題</b> 目標/手立て</p>	<p>対象者: A (3年 組)</p> <p>作成者: 神田</p> <p>作成日: 2015年 7・9・10月</p> <p>再検討: 2015年 12月</p>	<p>現時点 幼児～</p> <p>までの 小学校(5, 6年) 中学校</p> <p>経緯や 児童発達支援センター 特別支援学級に在籍 特別支援学級に在籍</p> <p>エビ 週1回OT,OS訓練</p> <p>ソード 療育手帳取得</p>	<p><b>「忘れ物が多い」 困難の発生する要因</b></p>
<p><b>&lt;健康状態&gt;</b></p> <p>・良好</p> <p><b>A-1 忘れ物に対する課題意識をもたせる</b></p> <p><b>&lt;心身機能・身体構造&gt;</b></p> <p>身体的特徴 精神面の傾向 視聴覚等機能 投薬状況 診断 等</p> <p>C-2 複数作業を同時に行えない</p>	<p><b>&lt;活動&gt; 課題や行為の個人による遂行 (できること/できないこと)</b></p> <p><b>△C-1 交流学級の授業で忘れ物が多い</b></p> <p>C-1 周りを見てから行動する</p> <p>C-1 忘れ物しても困っていない様子</p> <p>OC-2 自分自身を振り返る</p> <p>C-2 黒板を何度も見て書き写す</p> <p>△C-2 帰りの会で持ち物を書き写せていない</p> <p>OC-4 忘れ物がほとんどなくなった</p> <p>OC-4 意欲的に授業に参加</p> <p>OC-3 自発的にノートにメモする</p>	<p><b>&lt;参加&gt; 生活・人生場面への関わり(集会 授業 当番 等) (役割を果たす・活動や学習に参加している/参加していない)</b></p> <p>C-1 周りに合わせておとなしくしている</p> <p>A-2 方法を示して「忘れ物ゼロ」に向けてのやる気を高める</p> <p>A-2 書くことへの支援をする</p>	
<p><b>&lt;環境因子&gt; 物的・人的・制度的環境</b></p> <p>A-1 教員の連携を図る</p> <p>特別支援学級担任</p> <p>C-1 教科ごとの忘れ物の把握が不十分</p> <p>交流学級担任・教科担任</p> <p>C-1 身辺のことは支援学級担任に任せている</p> <p>C-1 忘れ物は口頭での注意をする</p> <p>C-3 持ち物に記名がないものがある</p> <p>C-3 物の置き場所を決めていない</p> <p>A-3 持ち物に記名, 場所の構造化を図る</p> <p>家族構成 保護者の様子・願</p> <p>A-2 保護者と共通理解を図る</p> <p>C-2 Aのことをあまり構ってやれない</p>	<p>△C-3 教科書やワークの場所がわからなくなる</p> <p>OC-3 忘れ物回数が週1~2回に減る</p> <p>OC-3 家庭学習をしてようになる</p> <p>C-2 家庭学習の習慣がない</p> <p>C-3 勉強に対する自信がない</p> <p>A-3 勉強に対する自信をつける</p> <p>OC-2 目標の合意形成ができた</p> <p>OC-3 忘れ物ゼロに対する意識が高まる</p> <p>OC-4 家庭学習への意欲が高まる</p> <p>C-2 書くことが苦手</p>	<p>本人の気持ち・願い</p> <p>C-1 みんなと同じように見られたい</p> <p>OC-2 「忘れ物すると困ることになる」</p> <p>OC-2 「毎日忘れ物チェックをしよう」</p> <p>△C-2 「書くのは面倒」</p> <p>△C-2 「覚えておけばいいやん」</p> <p>OC-3 「宿題は何？」</p> <p>OC-3 「明日の授業は何が要るかな？」</p>	
<p><b>&lt;個人因子&gt; 体力 習慣 経験 性格 志向 困難への対処法 所属 等</b></p> <p>C-1 忘れ物に関心が無い</p> <p>OC-2 目標の合意形成ができた</p> <p>OC-3 忘れ物ゼロに対する意識が高まる</p> <p>OC-4 家庭学習への意欲が高まる</p> <p>C-2 書くことが苦手</p>	<p>△C-3 教科書やワークの場所がわからなくなる</p> <p>OC-3 忘れ物回数が週1~2回に減る</p> <p>OC-3 家庭学習をしてようになる</p> <p>C-2 家庭学習の習慣がない</p> <p>C-3 勉強に対する自信がない</p> <p>A-3 勉強に対する自信をつける</p> <p>OC-2 目標の合意形成ができた</p> <p>OC-3 忘れ物ゼロに対する意識が高まる</p> <p>OC-4 家庭学習への意欲が高まる</p> <p>C-2 書くことが苦手</p>	<p>本人の気持ち・願い</p> <p>C-1 みんなと同じように見られたい</p> <p>OC-2 「忘れ物すると困ることになる」</p> <p>OC-2 「毎日忘れ物チェックをしよう」</p> <p>△C-2 「書くのは面倒」</p> <p>△C-2 「覚えておけばいいやん」</p> <p>OC-3 「宿題は何？」</p> <p>OC-3 「明日の授業は何が要るかな？」</p>	
<p>○成果      △課題(生徒の困難)      <b>改善点</b>      C:評価      A:改善</p>			

※詳細は、「平成27年度大分市教育センター長期派遣研修 研究報告書 神田 15~18ページ」をご参照ください。

※重点課題シートには「C評価」と「A改善」を記載

※「C評価」を受けて、「A改善」点を考える

例:「OC-2」は「第2段階の『評価』で成果があった項目」のこと

重点課題 I から「忘れ物ゼロ」を目標に設定した目標/手立てシート

※第1段階～第3段階を同時に記載している

ICF関連図	<p>目標 I :忘れ物ゼロ</p> <p>全体像理解 ・ 重点課題 ・ 目標/手立て</p>	<p>対象者: A (3年組) 幼児～ 小学校(5,6年)</p> <p>作成者: 神田 児童発達支援センター特別支援学級</p> <p>作成日:2015年 7月・9月・10月 週1回OT,OS訓練</p> <p>論討:2015年 12月 療育手帳取得</p>	<p><b>「忘れ物が多い」困難を軽減する 具体的目標/手立て</b></p>
<p>&lt;健康状態&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・良好</li> <li>・時々、力無くぐったりすることがある</li> </ul>	<p>&lt;活動&gt; 課題や行為の個人による遂行 (できること/できないこと)</p>	<p>&lt;参加&gt; 生活・人生場面への関わり(集会 授業 当番 社会的活動等)</p>	<p>A-1 忘れ物に対する問題意識をもたせる</p> <p>A-1 教員の連携を図る</p> <p>A-2 保護者と共通理解を図る</p> <p>A-2 方法を示して「忘れ物ゼロ」に向けてのやる気高める</p> <p>A-2 書くことへの支援をする</p> <p>A-3 持ち物に記名、場所の構造化を図る</p> <p>A-3 勉強に対する自信をつける</p>
<p>&lt;心身機能・身体構造&gt;</p> <p>身体的特徴 精神面の傾向 視聴覚等機能 投薬状況 診断 等</p> <p>※重なっている部分は、違う段階の同じ項目</p> <p>●P-1 視覚情報が優位</p> <p>●P-1 ルールが理解できる</p> <p>■P-2 複数作業を同時にこなせない</p>	<p>第1段階の目標:忘れ物をしないことの大切さがある</p> <p>第2段階の目標:忘れ物をなくすように努力する</p> <p>第3段階の目標:忘れ物ゼロ</p>	<p>学校生活</p>	<p>家庭生活</p>
<p>&lt;環境因子&gt; 物的・人的・制度的環境</p> <p>●P-3 Aから信頼されている</p> <p>●P-3 教員の連携不足</p> <p>D-1 教員の連携を図る</p> <p>D-1 「忘れ物すると困ること」のソーシャルストーリー</p> <p>D-2 忘れ物しないためのソーシャルストーリー</p> <p>D-2 トランジションエリアの作成</p> <p>D-2 トークンエコノミーシステム</p> <p>D-2 視覚化・構造化</p> <p>D-3 トークンエコノミーシステムの改良</p> <p>D-3 褒める・認める関わり</p> <p>D-3 環境整備(構造化)</p> <p>家族構成 保護者の様子・願い</p> <p>父母 弟 祖母</p> <p>家族はAのことを家ではあまり構ってやれない</p> <p>家族は、Aには個別指導が必要だと感じている</p>	<p>※「活動」「参加」はと特に記入がないので、段階的な目標と、そのためのA改善を記入している</p>	<p>家庭生活</p>	<p>家庭生活</p>
<p>&lt;個人因子&gt; 体力 習慣 経歴 性格 志向 困難への対処法 所属 等</p> <p>●P-2 慎重に見通しをもってから行動する</p> <p>■P-2 書くことが苦手</p> <p>■P-3 勉強に対する自信がない</p>	<p>本人の気持ち・願い</p>	<p>家庭生活</p>	<p>本人の気持ち・願い</p>

※詳細は、「平成27年度大分市教育センター長期派遣研修 研究報告書 神田 15～18ページ」をご参照ください。

第1段階(7月) 第2段階(9月) 第3段階(10月)

A:改善 P:計画 D:実行

例:「●P-2」は「第2段階で計画に活用した能力」のこと

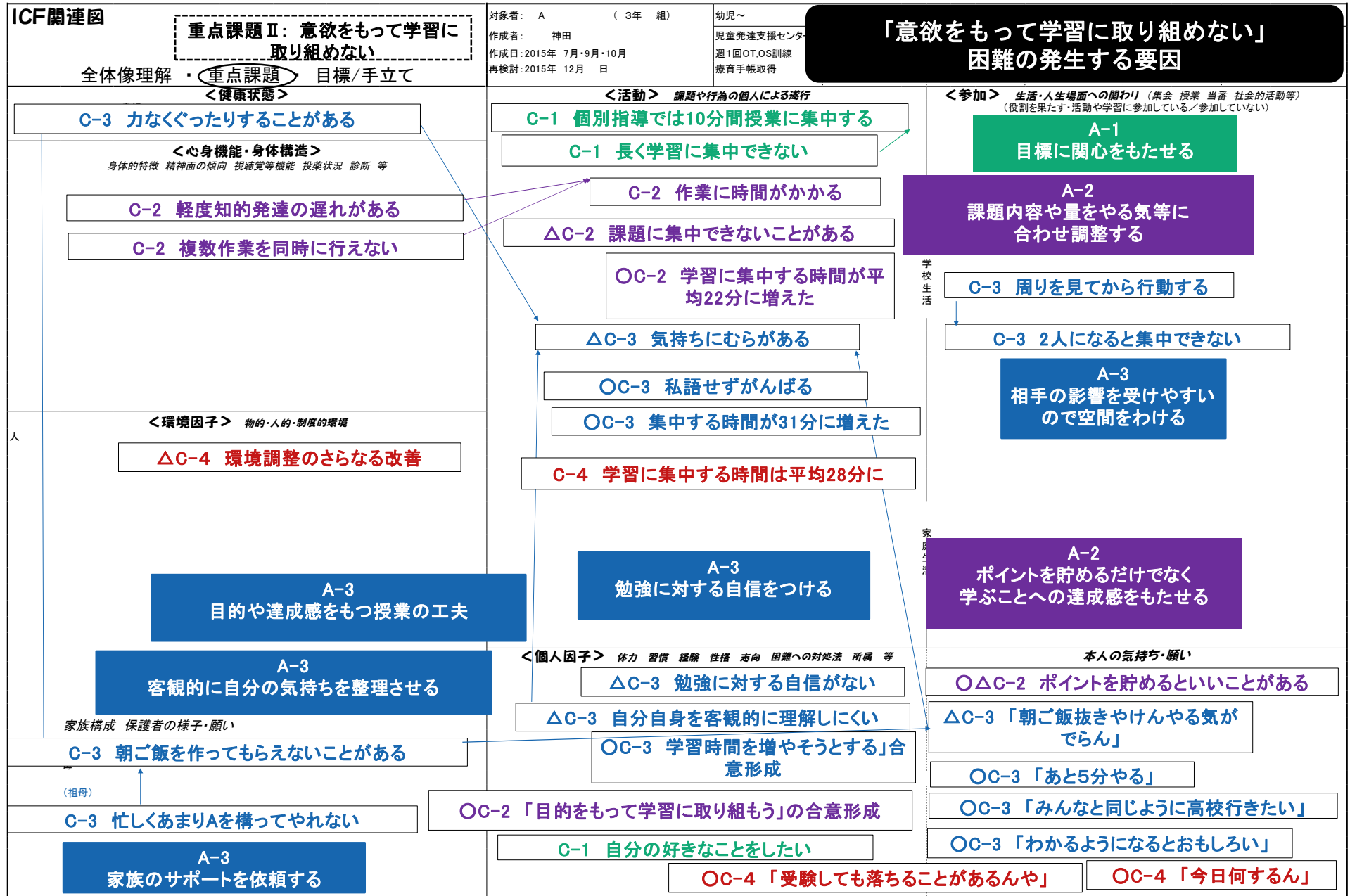
●活用する能力	■配慮すべき点	目標・改善点	手立て
---------	---------	--------	-----

※目標/手立てシートには「A改善」と「P計画(活用する能力・配慮すべき点)」を記載 ※「P計画」を踏まえて、「D実行」を環境因子に記入する



重点課題Ⅱ「意欲をもって学習に取り組めない」を主訴した重点課題シート

※第1段階(7月)・第2段階(9月)・第3段階(10月)・第4段階(12月)は評価のみを同時に記載している



※詳細は、「平成27年度大分市教育センター長期派遣研修 研究報告書 神田 19522ページ」をご参照ください。

○成果 △課題(生徒の困難) 改善点 C:評価 A:改善

※重点課題シートには「C評価」と「A改善」を記載 ※「C評価」を受けて、「A改善」点を考える 例:「OC-2」は「第2段階の『評価』で成果がある項目」のこと



重点課題Ⅱから「目的をもって学習に取り組む」を目標に設定した目標/手立てシート

※第1段階～第3段階を同時に記載している

<b>ICF関連図</b> <b>目標Ⅱ：目的をもって学習に取り組む</b> 全体像理解・重点課題・目標/手立て		対象者: A (3年組) 幼児～ 神田 児童発達支援センター 週1回OT,OS訓練 療育手帳取得 作成: 7月・9月・10月 再検討: 12月 日	「意欲をもって学習に取り組めない」 困難を軽減する具体的目標/手立て
<b>&lt;健康状態&gt;</b> ・良好 ・時々、力無くつたりすることがある	<b>&lt;活動&gt;</b> 課題や行為の個人による遂行 (できること/できないこと)	<b>&lt;参加&gt;</b> 生活・人生場面への関わり (集会 授業 当番 社会的活動等)	
<b>&lt;心身機能・身体構造&gt;</b> 身体的特徴 精神面の傾向 視聴覚等機能 投薬状況 診断 等 ■P-2 軽度知的発達の遅れがある ※重なっている部分は、違う段階の同じ項目 ■P-2 言葉の聞きづらさがある ●P-2 視覚情報が優位 ●P-1 ルールが理解できる ●P-1 時間的順序がわかる	第1段階の目標:席について学習しようとする 第2段階の目標:学習時間を増やそうとする 第3段階の目標:学習の目的を考える ■P-3 長く集中できない ※「活動」「参加」は記入が少ないので、段階的な目標と、そのためのA改善を記入している	A-1 学習を増やそうとする意識をもたせる A-2 興味のある授業内容で達成感をもたせる A-2 授業内容や量の調整 A-3 気持ちを整理する機会を与える A-3 授業への目的や達成感をもたせる A-3 他の影響を受けない環境調整 A-3 学習に対して自信をもたせる A-3 家族へサポートの依頼 ■P-3 場に応じた言葉遣いができない	家庭生活
<b>&lt;環境因子&gt;</b> 物的・人的・制度的環境 特別支援学級担任 交流学級担任 P-3 Aから信頼されている D-3 褒める・認める関わり D-3 受験のソーシャルストーリー D-3 めあて・流れ・振り返り D-2 パソコン教材の活用 D-2 能力に合った課題・量の調整 D-3 やる気の温度 D-3 環境調整 D-1 トークンエコノミーシステム 家族構成 保護者の様子・願い D-3 家族へのサポート依頼依頼	■P-2 作業に時間がかかる ●P-2 パソコンに関心がある ●P-3 慎重に見通しをもってから行動する ■P-3 自分自身を客観的に理解しにくい ■P-3 気持ちにむらがある ■P-3 勉強に対する自信がない	本人の気持ち・願い みんなと同じように見られたい みんなと同じように高校に行きたい	
<b>&lt;個人因子&gt;</b> 体力 習慣 経験 性格 志向 困難への対処法 所属 等			

※詳細は、「平成27年度大分市教育センター長期派遣研修 研究報告書 神田 19頁22ページ」をご参照ください。

第1段階(7月) 第2段階(9月) 第3段階(10月)

例:「●P-2」は「第2段階で計画に活用した能力」のこと

※目標/手立てシートには「A改善」と「P計画(活用する能力・配慮すべき点)」を記載 ※「P計画」を踏まえて、「D実行」を環境因子に記入する

A:改善 P:計画 D:実行

●活用する能力 ■配慮すべき点 目標・改善点 手立て